アンネのバラ

吉高人権だより

２０２４年　１月号
愛媛県立吉田高等学校　人権委員会発行

グルーガイ

国語科　窪田　智弘

いきなりですが、「グルーガイ」という言葉を聞いたことはありますか？英語では「Glue Guy」と書きます。「Glue」とは「糊」のことで、バスケットボールの世界では、他の選手と選手をつなぐような、隙間的な仕事をする選手のことを表す表現として使われています。このような選手たちは１試合で何十点も得点を稼いだり、ハイライトに残るような派手なプレーをしたりするようなことはあまりありません。スコアにも残らないような地味なプレーをすることがほとんどです。しかし、優勝するチームには必ずグルーガイがいると言われるほど、バスケットボールでは必要不可欠な存在です。

私は高校入学後初の練習試合で３年生の先輩から言われた一言でこの言葉を知りました。当時の私はベンチ入りするには点を取って目立つしかないと考えて自分本位なプレーばかりしていました。そんな時に３年生のある先輩から呼び出され、「チームはお前が目立つためにあるんじゃない。お前は走るのが速いんだからとにかく走れ。」と言われました。はじめは「何でそんなことを言うん？点取ったら文句ないやん。」と生意気なことを考えていましたが、その先輩を見ていると、誰よりもコートを走り回り、体を張ってがむしゃらにプレーしていることに気付きました。そして、大事な場面で試合に出してもらえるのはその先輩でした。そこで私は「チームから求められるのは目立つ選手じゃない、味方のために頑張れる選手なんだ。」と感銘を受け、それからはチームのために走り回ろうと思ってとにかく走る選手になりました。結果的にはチームの中心で目立つような選手になることはできませんでしたが、試合に出してもらえるようになり、３年時には四国大会にも出場することができました。

誰かのために行動することは簡単ではありません。自分のためにと思って行動してしまうことは誰にでもあると思います。「みんなのためにやれ。」と言われて「何で自分がしないといけないんだろう？」と思うこともあるかと思います。ただ、良い集団・まとまりのある集団には「目立たない仕事でも周りの人のために頑張れる人」が必ずいます。皆さんもそういった人たちに目を向けるとともに、皆のために頑張る「Glue Guy」を目指してみませんか？

【人権・同和教育ホームルーム活動】

先月の 12 月８日（金）に２年生が人権・同和教育ホームルーム活動を行いました。２学期のテーマは「人権の歴史Ⅱ」として、解放令の発布から全国水平社の結成までの歴史を通して、当時の差別を受けていた人々が差別解消に立ち上がった思いや熱意を感じ、差別解消への態度を養うというものでした。クラスによって愛媛の水平社運動に焦点をあてたり、「水平社宣言」に焦点をあてたり、工夫をこらして取り組んでいました。

生徒の感想を紹介します。

話を聞いたから終わり、自分だけが知っているからいいで終わらせず、家に帰ったらその話をしたり、間違った考え方を持っている人がいたら教えたりするなど私もできると思う。　また、この話をしたことを忘れないことも大切だと感じた。

差別されたと感じた人たちが、こんなにも勇気のある活動に取り組んでいることを知り、何もできない自分が少し気になった。今もきっと差別は残っているだろうし、私にできることは限られているかもしれないけど、そういった事実があることを心にとめて生きていきたい。

部落差別はなくなっても、小さい差別はなくならないかもしれない。まずは自分が差別をしないことから大切にしていきたいと感じた。

被差別部落の出身ということだけで差別されるこの世の中はおかしい。

人が人として生きることができる社会になるように願う。